

新3K農業物語

かっこいい、感動、稼げる

㊦

北海道中小企業家同友会函館支部が5月20日、函館で開いた新規会員の経営発表会。道南から集まった約30人の会社経営者の中で、日焼けした女性が異彩を放っていた。函館市昭和4の農業、大久保由紀子さん(36)。「農家だって経営者。ビジネスを勉強できる場ならどこにでも行きますよ」。背筋をぴんと伸ばし、話に聞き入った。

安全安心に商機

就農のきっかけは5年前。起業を志し、商品開

発などに9年携わった食品加工会社を辞めた。酪農学園大の3年次に編入して農業経営を学び、2008年、トマト生産を柱とする会社「駒ヶ岳ファーム大久保」を設立した。農家が野菜の生産から加工、販売まですべて行うことは、「安全安心」という付加価値を生む。

ビジネスの場

食の安全安心は社会のニーズだ。ニーズに応える

料理店も経営、野菜PR

ことで、収益は十分に上げられる。そう確信し、その確信を形にしよう

戦だ。店前には直売所を建て



料理店「tomatoDELI」で、自慢の料理を前に農業への思いを語る大久保由紀子さん

と昨年7月、自宅敷地内に、自分で育てた野菜を使う料理店「tomatoDELI(トマトデリ)」を開いた。日中は森町内の農園で農作業に汗を流し、夜は函館に戻って料理店を経営する。

渡島では3例目

渡島総合振興局によると、管内でファームレストラン(農家経営の飲食店)の開店は3例目。ただ、新規就農者が開店する例は「聞いたことがない」(農務課)という挑

た。料理を食べて気に入った野菜はそこで買ってもらう。直売所は「ハイジの家」をイメージしたぬくもりある外観。「直売所としてこちらは後発中の後発。野菜以外にも魅力がない」と。そう考え、癒やしを生む雰囲気こだわった。

もうすぐ開店から1周年。記念の催しを開いた後は、2日間休暇を取ってゆっくり読書しようと思っている。「農業はまだまだビジネスチャンスと秘めている。それをつかむにはとにかく勉強あるのみ」。だから、「読む本? やっぱりビジネス書です」(酒井聡平が担当しました)